

科目	国際医療協力論	担当	河野 美絵	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

国際開発協力分野の中で、保健医療分野に焦点を当てる。特に開発途上国の保健医療の現状から、効果的かつ持続可能な国際協力の在り方を検討する。前半は、保健医療分野をとりまく国際開発協力について、後半は世界の保健医療の現状についての理解を深める。

【履修注意】

携帯電話は電源切又はマナーモード、飲食禁止、講義中入退室禁止

【評価方法】

①中間まとめ、期末試験による評価:60%

②授業の参加(積極的な授業参加、討論、発言、出席状況、レポートなど):40%

【試験について】

筆記試験(中間まとめは小論文形式、期末試験は記述式)

再試験対象者の条件:総合(中間、期末試験及び授業の参加)による評価が60点未満の学生

※ただし、期末試験が40点未満の学生は不合格とし、再試験は実施しない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本科目は2単位科目なので90分の講義に対して90分以上の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

購入教科書なし。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	国際医療協力論とは	国際開発協力、国際保健医療、開発途上国、先進国
2	世界の国際開発協力機関	国際連合(UN)、国際保健機関(WHO)、世界銀行(WB)
3	日本の国際開発協力機関	政府開発援助、国際協力銀行、NGO、NPO
4	開発目標	ミレニアム開発目標
5	開発経済学と国際保健	開発経済、貧困
6	母子保健	乳幼児死亡率、妊産婦死亡率、リプロダクティブヘルス
7	国際協力とジェンダー	開発途上国におけるジェンダー
8	中間まとめ	1～7までの講義のまとめ
9	貧困と児童労働	貧困、識字率
10	教育、人材育成	未就学児童、児童労働との関連、人材開発
11	難民医療、伝統医療	難民医療、伝統的な医療(民間療法など)
12	感染症・寄生虫疾患、HIV/AIDS	感染症、HIV/AIDS
13	旅行医学	トラベルクリニック、国内外での医療サービス(日本人、外国人)
14	プロジェクト・マネジメント1	プロジェクトの計画、立案
15	プロジェクト・マネジメント2	プロジェクトの実施、評価
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ